

12月議会
一般質問

保育所の統廃合問題 保護者の願いに寄り添って！

民報

おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目
59番地
Tel 24-2021
Fax 24-2049



現在、奥州市議会令和7年第4回定例会は会期中であり、12月3日には、日本共産党の佐藤美雪議員が一般質問に立ちました。今週号はその概要についてお知らせします。

佐藤美雪議員は、10月に決定した教育・保育施設の統廃合方針を受け、保護者や住民から市に対して失望と不信の声が上がっていることを取り上げ、当局を質しました。

5か月で統廃合方針決定！

十分な議論が必要では？

統廃合の方針は、今年5月のニーズ調査から始まり、10月には方針が決定しました。佐藤議員は「余りにも短期間で議論の余地がなく、拙速な判断ではないか」と質しました。



急激な少子化に対応するため？

当局は、「令和4年～5年度にかけて急激に子どもの数が減ったことから、来年度の園児募集の開始時期までに対応する必要があった。方針決定のプロセスについても、保護者や地域住民への説明会、有識者など専門的見地からの意見も聞き、判断したもので拙速な判断ではないと考える」と述べました。

保護者や住民への説明会

統廃合ありきの姿勢に疑問

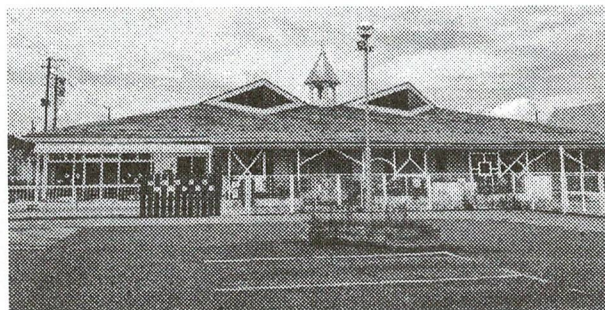
佐藤議員はある保護者からの声をあげ、「統廃合方針は既定路線で、意見は聞くだけは聞

く、という姿勢だった。移行期間など必要ではないか、と怒りを滲ませながら話す方がいた。このような保護者や住民の受け止めの中で、この方針を進めていいのか」と質しました。

統廃合を進める上でいろいろなステップということは考えていかなければいけないと感じる。市長

それに対し、市長は「全国的にも保育施設の統廃合問題は起きている。岡山県美咲町では住民で議論してもらい、その結果、統廃合が進んだ。将来を考えた場合、自分たちでできることはやる、という考え方のもとでの施策という意味では議論の時間をやはり取るべきだったと思う」と述べました。

令和12年度末で閉園する方針の
前沢保育所



子どもたちが自分らしく過ごせる 環境づくりを！

統廃合は誰のため？

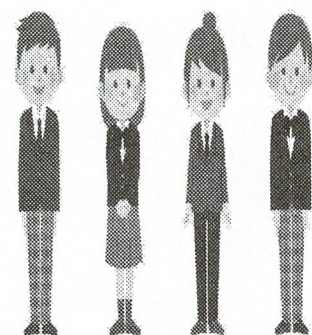
何のために？

佐藤議員は同地区にある民間保育所の経営を安定させることを大きな方針のひとつとする当局の姿勢に疑問を呈し、「統廃合方針には子どもたちにどのようにつけてほしいのか、保護者の負担を軽減し、寄り添うという視点が欠けている。不登校、いじめ、問題行動など子どもの諸課題に対応するためにも就学前の対応が重要になる。小規模で見守る保育体制など今後の統廃合を考える時にそのような視点が必要だ」と主張しました。

佐藤議員は、多様性を尊重し、自分らしく生きられる社会の実現に向けて、子どもたちが過ごす学校においてもそのような視点が必要であるという観点から①男女混合名簿の活用状況、②ジェンダーレス制服、学校指定用品の導入状況、③心とからだの性の不一致等に悩む子どもへの相談体制について質しました。

ジェンダー平等の取組は

広がっている



教育委員会は、「男女混合名簿の活用、ジェンダーレス制服はすべての学校で導入されている。名簿の活用状況には各校で差があり、児童・生徒の認識にも差が生じていることが考えられる。実態を把握し、助言していきたい」と述べました。

SNS等を活用した

相談体制の充実を

佐藤議員は心とからだの性の不一致等に悩む子どもへの相談体制について「子どもにとってデリケートで表出しづらい悩みであるため、対面での相談は難しい面がある。メールでの相談体制もあるようだが、気軽に相談できるSNSでの対応も検討すべきではないか」と相談体制の充実を求めました。